

教育相談職員研修(平成25年5月27日実施)
職員の感想のまとめ

- ・ 「どうしてもできないんだ！」ではなく、努力しても出来ない、困難をかかえているのだ、と理解することの大切さを再認識する良い機会だった。学習方法や気を付けたい点などを他の先生方と相談しながら、見直していきたいと思っている。
- ・ 自分に引きつけて具体的に考えられたのが成果である。かといって、効果的な対処策もすぐには分からない
- ・ 学年間で生徒の確認ができたのでよかった。
- ・ 授業の中で個々の生徒について感じていたことを振り返る良い機会になった。ただ難しいのはLDなのか、それっぽく見える行動パターンなのか、ただだらしがないだけなのか、幼少期に生活力をつけるしつけ等をきちんとされていないだけなのか、何か病的なものがあるのか、素人には区別できないと思った。何かにつけて病的な視点で生徒を見たくはない。
- ・ LDやADHDに関して知識がなかったが、今日の研修で少し知識を深めることが出来た。「この子はふざけていて出来ない子だ」と思い込むことは良くないことだと思った。いろいろと観察して情報を集めて対応していきたい。
- ・ 導入の部分を聞き逃してしまったが、とても勉強になった。このような生徒は最初から個別指導が必要なので、その意味からすれば1年の1学期の早い段階で情報交換できればと思う。
- ・ 資料や話の準備等に感謝する。「LD」等の障がいのある生徒は、10歳頃までに正しい刺激を受けられなかった家庭環境も更に拍車をかけてしまっていると思う。落ち着きのない「ADHD」の児童と接していたことがあるが、家庭がよくしつけ、根気よく子育てに当たられていたので、学習成績も良好だった。家庭と学校の協力体制と、確かな目を持つことが大切だと感じた。
- ・ 今まで「なぜ？」というものが多かったが、障がいというものを少し意識して指導に当たりたいと思う。
- ・ 集団の中での指示が理解できない障がいがあるとは思わなかった。単に集中力がないものと思っていた。話の流れが読めず、会話が成立しない場合、図・フローチャートなど文字にし、流れを明確にすれば、理解できるのか？
- ・ 視点を変えて生徒に接してみようと思った。自分の力で自分の問題を解決できない子が多いと思うので、生徒一人ひとりをよく見て励ましていくことだけでなく、教室環境などの全体のバランスを保っておくことも大切なのだと改めて実感した。
- ・ LDとかADHDとか、教員として学ぶべきことなのに、なかなかそちらに向けずにいた。とてもわかりやすく、易しい言葉で話してくれたので、私にとってのきっかけ、入門編になった。これからがんばりたい。
- ・ 短い時間だったが、得ることがあり、大変勉強になった。、「LD」考えさせられる言葉である。今後ちょっと気にして授業に臨みたい。
- ・ 今日のような、生徒一人ひとりについて意見や情報交換を持つ研修は学年の生徒を知る上でとても大切である。気になる生徒について、全体で共有出来ると指導方法などに発展できる。LD、ADHDについては、この時期の研修として有意義である。個別にどうアプローチをとるか、指導事例にまで発展させたい。

- ・「線引き」が難しい。怠け？拒否？できない？どこで、何を、どう見極めるべきか難しい。しかも併発しているのがより困難さを増しているようで困る。どう対処すべきか、今後とも考えていくべきだと思いました。
- ・障がいについて再認識することが出来た。また、今の学年にどのような生徒がいるか情報交換が出来、有意義だった。卒業後も社会との連携が大切だと思いました。
- ・発達障害に関しては、興味のある分野だったので、今回の研修はとても勉強になった。また、生徒についての情報共有も出来たので、気をかけ、しっかりと対応出来るのではないかなと思う。
- ・LDそのものがなかなか特定できないし、どの部分の認知障害なのか区分が難しい。また複合的な症状を示す場合もあるので、とても判断が難しいと思う。検査などをするのも一つの手段かなと思う。今回のように、いろいろな視点から「この子は～、あの子は～」といろいろと意見を出し合い、情報を共有していくことは今後絶対に必要なことだと思う。
- ・LDについては範囲が広いと思うので、認知することはなかなか難しいと思う。出来ないから怒るのではなく、出来ないことを出来るように支援することが大切だと感じた。
- ・途中参加で最初の方は話が聞けなかったが。「なんであいつはあんなにできないんだ！」とイライラすることもあったが、子どもを違う視点で見てあげることも大切なのではないかなと感じた。
- ・LDの視点で見ると理解しやすい生徒が多数いることを改めて確認できた。
- ・意見を交わして良かった。各クラスの生徒について、それぞれの教員がどんなことを考えているのか、重なりあっている部分も多い。協力してやっていければと思う。
- ・自分の今までの指導を振り返ると思い当たる点があり、反省する良い機会になった。
- ・LDの内容等を確認した上で、二次障害を少しでも軽くするために、方法を変えていこうと思う。「一度に一つの指示」をしっかりと守ろうと思う。
- ・勉強になった。詳しい症状もさることながら「二次障害を軽くする」には目が覚める思いだった。
- ・大変良かった。
- ・少人数個別指導が出来ないところが難しいと思った。本校では芸術はTTも無い状態なので。自尊心を回復させる話などとても勉強になった。
- ・あの子はどうだろう、こうしたらどうだろう等、話せる場面があって、とても良いと思った。生徒についてこうして皆でいろいろな思いや考えを伝えあっていくことが、とても良いと思う。様々なことも、ゆっくりじっくり話し合われていくと良いのだろうと思う。係の方々には大変な思いをさせたかと思うが、こうした機会は大事ななあと思う。
- ・私は昨年まで不登校の小中学生を指導していたが、約半数が発達障害の児童生徒だった。小中学生ということもあり、得意なことを伸ばす指導で自信を持たせるように指導していた。高校生の場合、進路にも大きく関わるため、別の手段で克服していくことを、指導していく必要があると感じた。注意深く見ていきたいと思う。
- ・こんなに皆が積極的に参加する研修は久しぶりだった。話も分かりやすかった。
- ・「一度に一つの指示」は心がけようと思う。他人との距離がとれない生徒の指導に悩んでいる。コミュニケーション能力に困難を感じている生徒へはどうすればよいのか次回の職員研修で教えてほしい。